

□ ヨード造影剤を使用する方へ

1. 目的と方法

今回実施する検査ではヨード造影剤という検査薬を血管内に注射して行います。
造影剤を使用することにより、病気の有無や性質、範囲を診断するのに大いに役立ちます。
※放射線科医の判断で部位や目的などにより造影剤を使用しない場合があります。

2. 副作用

ヨード造影剤は基本的には安全な薬剤ですが、一定の頻度で副作用が生じることがあります。

- ① 軽い副作用：吐気、嘔吐、くしゃみ、せき、のどの違和感、動悸、かすみ、発疹、発赤など基本的には治療は必要としません。（発生頻度：約 1%）
- ② 重い副作用：血圧低下、呼吸困難、意識障害など入院が必要になる場合があります。（発生頻度：約 0.01%）
- ③ 死亡に至る副作用：非常に稀ですが、病状や体質によってはあります。（発生頻度 0.0005%）

※検査終了後、数時間～数日後に上記の副作用が現れる場合があります。

3. 造影剤の血管外への漏出

血管の状態を観察しながら注射を行いますが、造影剤が血管外に漏れる場合があります。腫れ、痛み、熱感などほとんどの場合は時間がたつと吸収されるので心配はありませんが、まれに処置が必要になる場合があります。

4. ビグアナイド系糖尿病薬について

ビグアナイド系糖尿病薬の併用によって、乳酸アシドーシスが発現したとの報告があり、服用を一時的に中止する必要があります。主治医の指示通りに休薬をお願いします。

□ 心臓CT検査を受ける方へ

1. 目的と方法

CT検査はX線を用いて体の内部を撮影する検査方法で、従来心臓カテーテル検査が必要であった冠動脈や心筋の観察・評価が、造影剤を使用して撮影を行うことで可能となります。
気管支喘息、造影剤アレルギー、妊娠中や妊娠の可能性のある方は必ず申し出て下さい。

2. 検査の際に必要な薬剤、およびその副作用

- β 遮断薬
心臓CT検査では心拍数を調整した方が良い画像が得られます。そのために β 遮断薬を静脈内に注射あるいは内服することがあります。一時的な血圧低下が起こる可能性があります。また心不全（心臓の機能が低下）の方には注意して投与します。
- 冠動脈拡張薬
冠動脈を拡張させるため、検査直前に口腔内にスプレーします。
一時的な血圧低下や動悸、頭痛を感じる場合がありますが、5～10分間程度で改善します。
- ヨード造影剤
ヨード造影剤は基本的には安全な薬剤ですが、一定の頻度で副作用が生じることがあります。
※詳細は上記「ヨード造影剤を使用する方へ」をご確認下さい。

※万一、副作用が生じた時には、保険診療にて処置、治療を行います。

※上記の説明に同意された方は当日署名の上、検査をお受け下さい。同意された場合でも検査前であればいつでも撤回することが出来ます。